

科目名	運動器障害理学療法学演習 I	担当教員	小林 巧※ 小林 匠※ 山中 正紀※ 神成 透※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	----------------	------	---

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR31E	②					

科目概要	基本的な運動器疾患の理学療法を行うために必要な知識の再構築と評価・治療手技の演習から、各疾患に対する理学療法の考え方を身につけることを目的とする。骨折や靭帯損傷などの外傷、リウマチや関節症などの整形外科疾患に関して、「人体構造機能学Ⅰ、Ⅱ」、「運動学」、「運動器障害基礎論」、「理学療法基礎評価学Ⅱ」、「運動器障害理学療法学」において学んだ知識を統合し、各疾患に関わる機能解剖、病態、評価、治療・予防の一連の流れを学ぶ。
学習目標	① 代表的な運動器疾患に対する基本的な理学療法評価・治療の技術を身につける。 ② 代表的な運動器疾患に対する術前・術後のリスク管理に関する技術を身につける。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	運動器障害理学療法評価1	運動器障害理学療法評価の基礎①	運動器疾患に対する理学療法評価の流れを理解する。	山中
2	運動器障害理学療法評価2	運動器障害理学療法評価の基礎②	運動器疾患に対する理学療法評価の流れを理解する。	山中
3	関節可動域エクササイズ	関節可動域エクササイズ（方法）	関節可動域エクササイズの種類と方法を理解する。	山中
4	筋力トレーニング	筋力トレーニング（方法）	筋力トレーニングの種類と方法を理解する。	山中
5	バランストレーニング	バランストレーニング（方法）	バランストレーニングの種類と方法を理解する。	山中
6	股関節1	股関節疾患（動作分析）	代表的な股関節疾患の基本動作における特徴を理解する。	小林巧
7	股関節2	股関節疾患（治療）	代表的な股関節疾患に対する基本的な理学療法を実践できる。	小林巧
8	膝関節1	膝関節疾患（動作分析）	代表的な膝関節疾患の基本動作における特徴を理解する。	小林巧
9	膝関節2	膝関節疾患（治療）	代表的な膝関節疾患に対する基本的な理学療法を実践できる。	小林巧
10	足部・足関節1	足部・足関節疾患（動作分析）	代表的な足部・足関節疾患の基本動作における特徴を理解する。	小林匠
11	足部・足関節2	足部・足関節疾患（治療）	代表的な足部・足関節疾患に対する基本的な理学療法を実践できる。	小林匠
12	肩関節1	肩関節疾患（動作分析）	代表的な肩関節疾患の基本動作における特徴を理解する。	神成
13	肩関節2	肩関節疾患（治療）	代表的な肩関節疾患に対する基本的な理学療法を実践できる。	神成

14	体幹 1	体幹疾患（動作分析）	代表的な体幹疾患の基本動作における特徴を理解する。	角瀬
15	体幹 2	体幹疾患（治療）	代表的な体幹疾患に対する基本的な理学療法を实践できる。	角瀬
評価方法		レポート課題（90%）・講義に対する姿勢（10%）		
課題に対するフィードバック		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。		
教科図書		細田多穂・編『運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版』南江堂、2016年		
参考図書		医療情報科学研究所・編『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』メディックメディア、2017年 工藤慎太郎・著『運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略』医学書院、2017年 整形外科リハビリテーション学会・編『関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション』メジカルビュー社、2014年 石井慎一郎・監『膝関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018年 片寄正樹・監『足部・足関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018年 永井聡、他・編『股関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018年 石川朗、他・編『運動器障害理学療法学 I・II 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト』中山書店、2011年 相澤純也・監『クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる!』羊土社、2017年		
学習の準備		1 （予習）運動器障害基礎論の内容および教科書の該当箇所を熟読しておくこと（15分） 2 （復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（30分）		
オフィスアワー		月曜日 13 時~14 時半、その他在室時はいつでも可		
担当教員欄に※印を付した教員の実務経験		小林巧・小林匠・山中正紀・神成透・角瀬邦晃は、病院で運動器疾患における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。		